

革新的技術勉強会の開催について

予防課（技術政策担当）

1. はじめに

消防庁では、消防研究センターを中心に、消防機関や民間企業、他の研究機関等の関係者と連携を図り、消防防災の現場への実装を重点とした科学技術の研究開発を推進しています。

施策を推進するにあたって、消防庁職員自身が革新的技術に関する幅広い知識を習得し、意欲を醸成する必要があるとして、昨年11月に消防庁で初めてとなる「革新的技術勉強会」を開催しました。

これまでに2回開催しましたので、ご紹介します。

2. 民間企業の考えを学ぶ（第1回）

消防庁では、様々な経歴を持つ職員が、それぞれの機関から派遣され、専門知識を活かして一緒に働いていきます※。第1回は、民間企業出身の職員2名を講師に、「民間企業の考えを学ぶ」という題で開催しました。

講義では、製品の事業化プロセスや、消防機関の調達に関する民間企業の考えを知ることができました。また、いつも机を並べて一緒に仕事をしている仕事仲間が講師となったことで、民間企業の革新的技術の事業化やコスト意識によりいっそう関心を持つきっかけとなりました。

3. 消防研究センターの革新的技術に触れる（第2回）

消防研究センターは、我が国唯一の消防防災に関する総合的研究機関であり、現場の消防職団員の活動を科学技術の面から支えています。第2回は、「消防研究センターの革新的技術に触れる」と題した展示会を行いました。

当日は、消防研究センターの研究官が自らの研究ブースに訪れた消防庁職員に研究成果を説明し、意見交換をしました。革新的技術の研究成果をどのように消防現場に役立たせるのかについて職員の一人ひとりが考えるきっかけとなりました。



消防研究センターの革新的技術に触れる（第2回）の様子

【展示内容】

(1) 消防研究センターの概要

(2) 救急車・指揮車用パンク対応タイヤ

パンクした状態であっても、傷病者の病院搬送やタイヤ交換場所までの走行ができるよう、時速40kmで少なくとも距離50km走行可能なことが確認されたタイヤ

普通タイヤのパンク状況



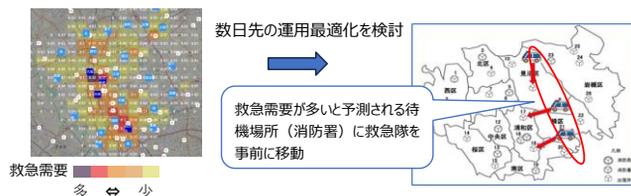
パンク対応タイヤ



←消防庁動画チャンネル

(3) AIを活用した救急隊運用最適化システム

救急車の需要分析、傷病者情報分析等により、救急車の運用体制を最適化するため開発したAIを活用した救急隊運用最適化システム

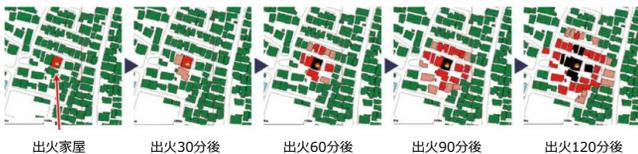


(4) ITS Connect (緊急車両存在通知等)

ITS Connect技術で「緊急車両存在情報」を通知し、一般車両のドライバーから直接見えない緊急車両の情報を知らせることで、安全運転を支援するシステム

(5) 市街地火災延焼シミュレーション

消防車両や人員数、自主防災組織等地域住民の防災力、更に建築物の防災レベルを含む総合的な消防力と消防水利の要素を取り入れた市街地火災延焼シミュレーションが可能なシステム



(6) 火災原因調査業務

消防研究センターが行っている火災、危険物流出事故の原因調査や支援業務



能登半島地震に伴い発生した輪島市大規模市街地火災 (令和6年1月1日発生)



火災原因の鑑識・鑑定への支援

4. 今後の展望

今後は、民間企業の革新的技術を勉強する機会や、革新的技術の導入に奮闘している消防職員の話の伺う機会も作り、消防防災における施策に反映していきたいと考えています。

※ 消防の現場で活躍する消防吏員や地域の防災を担当する市町村・都道府県の職員、地方自治や行政評価を専門とする総務省の職員、医師免許を持った厚生労働省の職員などがいます。さらに、国の機関である消防研究センターには、研究官として採用された職員も多くいます。

問合せ先

消防庁予防課 (消防技術政策担当)
 中嶋・秋山・岩井
 TEL : 03-5253-7541
 Mail : gisei2_atmark_ml.soumu.go.jp

※ スпамメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。
 送信の際には、「@」に変更してください。